

新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する

資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、

十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の

両氏をメインに常設展示し、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

内藤湖南「没後80年展」

H26. 8 ~ H27. 6



先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

◆第1次展示 H2.7~H3.6

瀬川 清子 (1895~1984)	女性民俗学の大家	(毛馬内)
杉山 万喜蔵 (1907~1957)	地域医療に貢献	(尾去沢)
小田 島樹人 (1885~1959)	気品に富んだ作曲家	(花輪)
関直右衛門 (1873~1943)	鹿角の観光に新時代を築いた	(八幡平)
阿部 藤助 (1886~1928)	郷土の興隆に生涯を捧げた	(八幡平)

◆第2次展示 H3.7~H4.6

小田 島由義 (1845~1920)	郡長として殖産興業に尽くした	(花輪)
浅井 小魚 (1875~1947)	俳人・大湯環状列石発見者	(大湯)
田村 徳治 (1886~1958)	日本行政学の創設者	(花輪)
大里 武八郎 (1872~1972)	名著「鹿角方言考」の著者	(花輪)
渡部 繁雄 (1886~1976)	地域農業の近代化を促進	(八幡平)

◆第3次展示 H4.7~H5.7

阿部 恭助 (1886~1928)	鉱山日記「阿津免草」の著者	(尾去沢)
立山 弟四郎 (1867~1937)	郷土の産業と教育に貢献	(毛馬内)
川村 竹治 (1871~1955)	育英会を創立した司法大臣	(花輪)
諏訪 富多 (1883~1981)	地域産業文化の発展に貢献	(大湯)

◆第4次展示 H5.8~H6.7

田中 北嶺 (1838~1918)	「戊辰戦役図絵」を描く	(毛馬内)
坂田 祐 (1878~1969)	関東学院設立と教育に献身	(大湯)
大里 周蔵 (1884~1965)	町政に尽力した文化医師	(花輪)
栗山 文次郎 (1886~1965)	かづの古代菌、紫根染の大家	(花輪)
高杉重右衛門 (1889~1964)	地方行政農事に寄与・歌人	(尾去沢)

◆第5次展示 H6.8~H7.9

浅利 佐助 (1844~1920)	醤油醸造業の基礎を築いた	(花輪)
宮城 佐次郎 (1881~1951)	教育と地方自治に貢献	(花輪)
伊藤 良三 (1883~1964)	教育と町政に尽くす	(毛馬内)
立山 林平 (1888~1918)	将来を嘱望された天才数学学者	(毛馬内)

◆第6次展示 H7.10~H8.9

児玉 高慶 (1888~1929)	武道を奨励し青少年を指導	(花輪)
柴田 春光 (1901~1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)
阿部 六郎 (1893~1974)	郷土文化の向上に貢献	(花輪)

◆第7次展示 H9.10~H10.9

内田 武志 (1909~1980)	民俗学と菅原真澄の研究	(八幡平)
豊口 鋭太郎 (1873~1952)	秋田県の教育振興に貢献	(毛馬内)
種市 霊山 (1882~1945)	スケールの大きい氣骨の書家	(毛馬内)

◆第8次展示 H11.11~H12.10

高橋 克三 (1888~1984)	湖南研究と地域先人の顕彰に尽力	(毛馬内)

◆第9次展示 H12.11~H13.11

黒沢 隆朝 (1895~1987)	音楽教育と音楽起源の研究	(花輪)
大里 健治 (1898~1978)	音楽、郷土芸能の振興に寄与	(毛馬内)

◆第10次展示 H13.12~H14.11

石田 収蔵 (1879~1940)	北方民族研究の草分け	(花輪)

◆第11次展示 H14.12~H15.11

石川 伍一 (1866~1894)	国益に殉じた生涯	(毛馬内)

◆第12次展示 H15.12~H16.11

小松 五平 (1891~1972)	鳴子旧系こけしを継承した名工	(大湯)
川村 薫 (1897~1976)	果樹指導と郷土新聞の草分け	(花輪)

◆第13次展示 H16.12~H17.11

相川 善一郎 (1893~1986)	彫塑・彫刻など文化活動に貢献	(花輪)
馬淵テフ子 (1911~1985)	空駆けた女流飛行家	(八幡平)

◆第14次展示 H17.12~H18.11

川口 月嶺 (1811~1871)	盛岡藩を代表する絵師	(花輪)
泉澤 織太 (1777~1840)・牧太 (1778~1855)・恭助 (1806~1870)	学者の家系	(毛馬内)

◆第15次展示 H18.12~H19.11

佐藤要之助 (1859~1922)・良太郎 (1878~1912)	鹿角りんごの礎	(花輪)
佐藤 良雄 (1906~1977)	チエロ奏者	(花輪)

◆第16次展示 H19.12~H20.11

小田島艸子 (1882~1969)	花輪俳談会を創立	(花輪)
鎌田 露山 (1891~1966)	毛馬内俳句会を設立	(毛馬内)

◆第17次展示 H20.12~H21.11

山先 青山家の人々	山相家 青山の名を高めた 青山庄藏栄重	(尾去沢)
山先 川口家の人々	歐米の採鉱技術を学んだ 川口理仲太	

◆第18次展示 H21.12~H22.11

瀬川 清子 (1895~1984)	女性民俗学の開拓者	(毛馬内)

◆第19次展示 H23.3~H24.3

先人顕彰回顧展	浅利佐助他パネル展示	

◆第20次展示 H24.10~H25.3

和井内貞行「没後90年展」	十和田湖開発の父	(毛馬内)

◆第21次展示 H25.6~H25.12

柴田 春光 (1901~1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)

◆第22次展示 H26.8~H27.6

内藤湖南「没後80年展」	東洋史学の開拓
--------------	---------

東洋史学の開拓者



略歴 *a brief personal record*

- 明治18年(1885) 秋田師範学校を卒業、綴子小学校教員となる。
明治20年(1887) 上京し大内青巒が主宰する「明教新誌」次いで三宅雪嶺の「日本人」「亜細亜」ですぐれた論説を書く。
明治27年(1894) 大阪朝日新聞社に入社し、その後高橋健三(内閣書記官)を助け新内閣の政治子綱領を書く。
明治30年(1897) 朝日退社後「近世文学史論」を発表し、黒岩涙香の「万朝報」に入社「燕山楚水」を刊行。
明治33年(1900) 大阪朝日に再び入社。満州視察、清国での知己を得ながら間島問題の調査を行う。
明治40年(1907) 京都帝大の狩野亨吉に招かれ東洋史学を担当。文学博士号を授与され、その後「支那論」を刊行。
大正13年(1924) ヨーロッパ訪問。「日本文化史研究」「新支那論」刊行。
昭和6年(1931) 京大退職後恭仁山荘に住み、昭和天皇に唐の宰相杜佑の著した「通典」から御講説する。
昭和9年(1934) 6月死去。勲二等瑞宝章を贈られる。

Konan Naito

内藤湖南

ないとう こなん

1866-1934 (毛馬内)

◇新聞・雑誌記者

明治20年に上京してから約20年はジャーナリストとして活躍、優れた論説を数多く執筆、数冊の著書も刊行してその見識と文才は人々の注目を集めました。また中国を訪れ見聞を広めたことから学者、政治家との交流も深まり中国問題の専門家の地位を固めました。

◇教育者

綴子小学校のわずか2年の滞在でしたが、歴史教科書を手作りして教育するなど教え子から代議士や県会議員が出ています。また42歳の時、狩野亨吉(大館出身、京都大学文科大学長)より誘いを受け京都帝国大学では東洋史学を担当しました。

◇東洋史学者

世界の中国学の三大中心は北京、パリ、京都と言われるように湖南の独創的シナ(中国)学研究は今なお高く評価されています。中国史研究の最大の功績は中国の近世は宋(960~1278)から始まるという時代区分でした。

◇書と漢詩文

幼少の頃から素養を積み、漢詩は額面や書幅となって郷里では大事にされています。書は中国の晋の時代の王羲之や七世の孫の智永を尊びその品格の高い端正温雅な独特な書風は高く評価されています。